
カンニバル・シェイプシフター

NancyBill

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カンニバル・シェイプシフター

【Nコード】

N2749T

【作者名】

NancyBill

【あらすじ】

待合室でのさなか、少年Kは、蛾のような奇妙なものに触れてしまふ。

それから起こる奇妙な出来事を語ります。

0 - 0 茫洋ダイジェスト（前書き）

主人公Kの登場からスタート。
シーン5、主人公Kの捕食シーンへ

0 - 0 茫洋ダイジェスト

甲付駅にて

新幹線から降りる、1人の見目麗しい少女「K」。

年のころは14、5か。肩にかかる位のセミロング・ヘア。

灰色チエック柄のワンピースが黒く細やかな髪を際立たせている。

Kの穢れのない白い肌、ゆかしい顔立ちに振り返らぬもの無し。

端麗に歩き去る様は精巧な人形を思わせる。

*

県道脇の雑木林にて

Kは、無表情にも捕らえた女学生を正面から見やる。

両腕にもう一本ずつ生やした細長い腕で、獲物を羽交い絞めにして
いる。

被害者の女学生「えぶっ、ひいぐ」

Kは（元からある方の）右手人差し指を伸ばし、女学生の左眼球
へとねじ込む。

やがてそれは脳髄に至り

じいゆるるるる

短く吸い込むような音がした寸刻後、女学生は痙攣しながら絶命す
る。

Kはその様子に意も介さず、腕を大口のミールワーム状に形を変えて、

1時間ほどかけゆっくりと若い女性の脚、腕、頭、骨盤から首にかけてを咀嚼し、堪能した。

Kは喜びに打ち震えながらも、何も感じなかった。（あるいは、感じないようにした）

ターゲットにしたのは、山梨県甲府市駅前にいた15歳の女の子である。

人は8年から16年、特に第二性徴にかかるころが最も旨い。性別によって違いはあるが、Kにこだわりは無い。

それでも女性を多く食べてしまうのは、ひとえにKの精神が男性のそれだからであろう。

Kの股間が隆起し盛り上がっている様は、まさしく男性であるといえる。

Kは、女性が好きなのだ。

Kは、異常なまでに若く美しい女性が好きなのだ。

0 - 0 茫洋ダイジェスト（後書き）

きれいな戸愚呂（兄）

0 - 1 芽生え（前書き）

回想シーン 3

0 - 1 芽生え

首を吊る少年K。足元には華奢なテーブル。

K「僕は死なない。僕は死なない。僕は、僕以外の何かになったんだ。」

Kは体重の乗っていたテーブルを前にけり倒す。
反動で、体がわずかに前後にゆれた。

首だけで体重を支えていることになる。

しかしKはまったく苦しまず、表情も変わらない。

K「...あ...っ...えあ...あ、あーあー、はー、あー。」

なぜこの状態で普通に声が出せるのか。声帯が別の場所にできたから？

あー、うー、口も普段通り動かせる。」

Kは声を出す。内容はあつてないようなもの。

Kの部屋にはKしかないし、何かに聞かせているわけでもない。
それでもKは声に出して考えをまとめる。

普段の生活で、あまり人と話せない故の癖だ。

K「さて。」

さて、とKは思う。

ロープを握り、懸垂のような格好で体重をささえる。

首をロープの輪っかから外し、ゆったりと床に足をつける。

両腕をさげたまま。

尾てい骨のあたりから細長い腕が1本、生えていた。
作りもののようで生氣のある、生々しい尻尾のような白い腕。
それは異形だった。

K「たしかに僕はこれを望んだし、実際に願った。でもやっぱり、
驚くじゃないか。」

Kは、ある意味で不老不死と強靱な身体を望んだ。
こんな罰ゲームのような人生だ。自分の身体がどんなにひどいこと
になってもいい、
どんなに悲惨な結末になってもいいと、強固な覚悟はしていた。そ
れでも、驚くことは驚く。

Kは、鏡を見ながら意味もなく発声をする。

K「うー、うー、あー、あー、はー、はー。」

にゆるにゆると、腕が1本、覆水が盆に帰るように元の鞘に納まっ
ていく。

K「らあー、らあー、うー、はー、はー。」

それは、異形だった。

0 - 2 社会に奉仕することはない（前書き）

導入からスタート

回想シーン 00

0 - 2 社会に奉仕することはない

Kはその他大勢の人びとと同様、嫌になっていた。

経済に、金融に、政治に、慣例に、習慣に。

憤怒に、悲壮に、空虚に、この自身の閉塞感に。

この国では自殺者が年間15万人以上にのぼる。

15万通りの絶望と狂気。それは一体どれほどのものなのだろう？

この国では22歳までが義務教育期間である。Kは12歳だから、あと10年、勤め上げなければならない。少年であるKにとって、10年は永遠とも思える。

01「Kくん、当番なのに、いないね」

02「ああ、すぐに帰っていったよ」

*

歯医者者の待合室にて

平日の昼間ということもあり、ソファには老人と中年女性が所狭しとならんでいる。

Kは診察券を出した後、ちょうど開いた1人分のスペースに座った。何とはなしに待つ人を眺める。人は意外と、熱心に雑誌を読むものだ。

歯科助手「Kさん。Kさん。」

Kはいきなり近くで（と感じた）名前を呼ばれ、手に持っていた携帯電話を床に落としてしまった。

電池カバーが外れ、ソファの下に入り込んだ。

K「あつと、すみません」

歯科助手「あつごめんなさいね！」

Kは携帯電話を拾い、そしてソファの下を覗きこんだ。

はたしてそれはそこにあった。

0・3シェイプシフター（前書き）

はたしてそれはそこにあつた。

0 - 3 シェイプシフター

手のひら大の、蛾の死体。

（形では蝶ともとれるが、そう呼ぶにはいささか禍々しい）

それはラミネートされた押し花のようにぺしゃんこで、まっ平らだ。写真の切り抜きや、あるいは床の模様かもしれない。（とても突き抜けている感性だ）

けれどそれには、間違いではなく、圧倒的な生命の気配がある。

僕はそれに手をのばす。

Kは、蛾や蝶が大の苦手だ。近くに飛んでこられると、パニックを起こしてしまうほどに。

しかし標本や窓の外などの安全圏で眺める分には、嫌悪している反動か、

その美しさに見とれてしまうことがある。

Kはそれに触ってみたいと強く思う。

もしこれが本物で、生きていて、急に飛び立ったら、などとは考えもしなかった。

ぱりっ、と触った羽の部分が割れる。やはりそれは動かない。

ならば、と手で優しくそれ全部を引き寄せるようにした。

ぱりっ、ぱりっぱりっ。

ほんの少しでも動かすと割れてしまい、もう元の形も分からなくなってしまう。

床から剥がれたせいか、エアコンによるほんの僅かな空気の流れに当てられて、

それは粉々となって散る。

僕は電池力バーを拾い、袖についた粉を払った。

歯科助手「取れましたか？」

K「あ、はい。あ、Kは僕です。」

歯科助手「はい。まずはレントゲンを撮りますね。こちらへどうぞ。

ご予約では虫歯の総チェックということでしたので、

その後は歯石取りをしますね。」

Kは言われるままに台に顎を置き、レントゲンを撮る。
言われるままに案内され、口を開き、歯石を取られる。

歯科助手「では口をゆすいで下さい。すぐに先生がきますからね、
待ってて下さいね。」

*

歯科医が来るまでの間、Kは自分の殻に入り込む。

考えていることは、学校のこと、展望のない将来のこと。救いのない母親のこと。

Kは自分が泣いていることに気がつく。

Kは自嘲しつつ、心の中で幸福になれるようにと願う。

*

「そreでiiのか」

何かの、陰鬱な声が響く。

Kは当惑しながらも、その声を在るものとして感じる。
自分は空想に酔っているのかもしれない、心がだめになっているのかもしれない。

そう考えつつ、しかし僅かの間に願望を張り巡らせる。

K「体を自由に作り変えられるようにしたい。」

少し間が開き、

「それgaii iのka」

Kはこのアイディアを吟味する。

K「（これはいいアイディアだ。あらゆる空想の再現の可能性が詰まっている。

何らかの副作用やしっぺ返しに苦しむことがあれば、自ら命を絶つこともできる。）」

僕は、肯定の返事をした。

0 - 3 シェイプシフター（後書き）

回想シーン2

0 - 5 蛾（前書き）

僕は肯定の返事をした

0 - 5 蛾

声のようなものは、聞こえなくなった。

Kは幻聴である可能性を否定し、対話は終了、願いは受理されたいと思うことにした。
体を作り変える。

本当にそんなことができるのだろうか？それならば詰め物まみれの、うらぶれた奥歯どもを
なんとかしてほしい、と念じる。

Kは舌で奥歯をなぞってみる。特に変化はない。
何も起こらないのならもつと自分に見合った願いにすればよかったのではないか、とKは思う。
例えば、神のお慈悲やご利益、ライ麦畑で子供が崖っぷちから落ちないようにする、など。

*

歯科医「はい、お待たせしました」

歯科医が現れたので、Kは軽く目配せする。

が、驚きのあまり、目を見開いたまま硬直してしまつ。
目も、鼻も、口も無い。待合室で見た「あの蛾」が、顔の中央に、張り付いている。

すぐ後に歯科助手も現れる。こちらも同様、顔が、「あの蛾」にな

っている。

Kは戦慄する。本物の恐怖と狂気を感じる。

歯科医「体を作り変えたいんだね？」

K「えっ、は」

歯科医「本当に人の欲というものはよく分からない。君は発育は遅れているけど、

将来きつとハンサムになる。体も大きくなるし、
理知のありそうな風体だ。

それが一体なぜ、こんな願望になるのだろう。でもそれは置いておこう。

君は自由に体を作りかえる、それgaiいんだね
？」

僕は、はい、と擦りきれた返事をした。

歯科医「はい、じゃあやりましょうか。口をあー、ってして」

手をKの口にかざした歯科医の袖口から「あの蛾」が1匹、飛ぶ。

Kは瞬間にパニックになり、床に転げ落ちる。うがい用のコップが、
からんからん、と転がる。

K「蛾っ！、蛾！」

歯科医「これは必要なことなんだ。そう、麻酔のなかった頃、医者
の精神はどれだけ擦れていったと思う？」

歯科医と歯科助手のあらゆるところから、「あの蛾」が這い出でる。

電球に、レントゲン板に、窓に張り付いていく。
イスに、ドアの取っ手に、壁に、そして

Kの肩に。

K「！！あつ！！ああ！！！」

Kは慟哭し、両手両足をめっちゃめっちゃに振って蛾を払う。
スリッパの裏でドアにとまっている「あの蛾」を潰し、取っ手にと
まっているものは払う。

Kにはとても長いと感じられる廊下をひた走り、待合室に向かう。
Kは、早く安全圏に行きたい、背中に、服の中に「あの蛾」が入り
込んでいるかもしれない、と焦燥に駆られる。

待合室へのドアは、開かない。

歯科医「君は何故、蝶々や蛾…とりわけ蛾が、苦手なんだろう？」

K「ふー！ふーっ。分からないっ。何度も考えた、思い返した！でも
分からない！」

歯科医「そう、それがとても重要だ。原初の恐怖、魂のキズ。それ
はとても利己的な遺伝子になる」

K「意味がわからない！」

歯科医「君、必要なことなんだよ。類は友を呼ぶ、覚えておいて欲しい。
それじゃ、口を開けてくれるかな？」

Kは、感じる。虫が苦手な人が共有する感覚。なんとなく分かる、あそこにいる、絶対いる、たくさんいる。

壁、床、天井、いたるところに、いる。

K
「
!
!
)
)
!
:
!
!
!
!
!
!
う
う
!
!」

こめかみに「あの蛾」がとまる。

Kは尻餅をつき、もんどりを打って、パニックを起こす。
手や首に触れる、鱗粉や羽の感覚。

「あの蛾」たちは、既にKの体中をまさぐっている。

Kは、強く目を閉じる。

しかし、首から服の中に入り込む「あの蛾」たちの嫌悪感に

K「ああああああああああんんんんん！！！！！」

叫ぶために、口を大きく開けてしまう。

そこに入り込む、「あの蛾」たち。

Kの緊張する舌と口腔に、

ぷ
ち
ゃ

と潰される。

K「おおおおおおお」

Kは激しく嘔吐する。そして無意識にも手の甲で拭おうとしてしま
う。

っふうっ

Kの唇に、肌ではない、「あの蛾」の毛むくじゃらの腹部が触れる。
これに更に驚き、ついに目を開けてしまう。

体中を這う、「あの蛾」たち。美しいほどに、グロテスクである。

K「あああああああ」

Kは、発狂に至る。

1・0から（前書き）

苦虫に噛み潰され、Kは発狂に至る

1 - 0 二 二 から

自分の部屋で目が覚めるK。

全身に浮遊感がある。体が自分のものでないように感じる。

Kは意識をしつかりと覚醒させ、調子を整えようと「考え」た。

K「おおおおへっ」

激しく嘔吐するK。「あの蛾」を噛み潰した感触と味を思い出し、恐々とした気分になる。

Kは取り乱し、指を4本口に入れ口腔をかき混ぜる。唾液を垂らし、本気で力を入れる様は、さながら狂人である。

ぐいちゃあ、ぐたや、にちゃ。

K「もういやだあああああ！！！」

さらにKは、自分の全身を這う「あの蛾」を思い出し、両手両足頭もんどりを打って暴れまわる。

やがて全身を手で擦り、掻き篁り始めた。

痛みを省みないその行為に、すぐに皮膚から血が滲む。

がりがり きしゅがり

ベッド全体が嘔吐物と血で色が変わっても、Kは行為をやめない。むしろいっそう激しさを増し、完全に自失している状態だ。

K「あじゃしゃあつうつうつうつうう！」

舌を引き抜こうとする。唾液で滑り、爪で表面がえぐれる。
耳を引きちぎろうとする。耳殻が一部離れ、そこから血が滲む。

右目に指を突っ込み、

びちっ

引きちぎる。

終にはKの意識はとび、動かなくなる。

1 - 0111から(後書き)

f o r (; ;)

1・0WHILE (1) (前書き)

終にはKの意識はとび、動かなくなる。

1 - O W H I L E (1) ♪

先ほどの悪夢を鮮明に覚えているK。

自分の部屋で目が覚める。

全身に倦怠がある。体が自分のものでないように感じる。

少なくともこの部屋の乱れ様は、Kの思い出すそれではない。

人の体からこぼれるほぼ全てのものがあり、まるで合戦後の模様を呈している。

Kは意識をしっかりと覚醒させ、調子を整えようと「考え」た。

K「ああおおおへっ」

激しく嘔吐するK。「あの蛾」を噛み潰した感触と味を思い出し、恐々とした気分になる。

Kは取り乱し、指を4本口に入れ口腔をかき混ぜる。唾液を垂らし、本気で力を入れる様は、さながら狂人である。

ぐいちゃあ、ぐたや、にちゃ。

K「またこれだあああああ!!!!」

さらにKは、自分の全身を這う「あの蛾」を思い出し、両手両足頭もんどりを打って暴れまわる。

やがて全身を手で擦り、掻き篁り始めた。
痛みを省みないその行為に、すぐに皮膚から血が滲む。

がりがり きしゅがり

ベッドからこぼれて床全体が嘔吐物と血で色が変わっても、Kは行為をやめない。

むしろいつそう激しさを増し、完全に自失している状態だ。

K「あじゃしゃあつつつつつつうう！」

舌を引き抜こうとする。唾液で滑り、爪で表面がえぐれる。
耳を引きちぎろうとする。耳殻が一部離れ、そこから血が滲む。

左目に指を突っ込み、

びちっ

引きちぎる。

終にはKの意識はとび、動かなくなる。

1 - 0 W H I L E (1) 㐁 (後書き)

㐁 / しばらくの間、永久ループ

1 - 1 ゆりかこ (前書き)

終にはKの意識はとび、動かなくなる。
ループ終了

1 - 1 ゆりかご

Kはもう幾度も、繰り返している

夢が覚めても夢、そのまた夢のように思う。

しかしこれは、実際に起こっていることだ。

そのたびKは自分の肉を引きちぎり、部屋を血液で染め上げていく。
しかし部屋を散らかしたはずの目、歯、髪、指、鼻や耳はなぜか見
当たらない

最初の発狂から幾度、もうすでに日は沈もうとしている

Kはまた意識を失いながらも、ぼそりと呟く

K「これはほんとうのことだ。ほんとうにおこってしまっているこ
とだ。

僕はもう僕としては生きられない。そのくらいの深手だ。

僕はもう僕でないものになりたい。こんな気持ちの悪い思いは
もうたくさんだ」

顔色は優れないが、Kはほぼ元通りの姿になる。

そしてKは深く深く眠る。絶望と絶滅に直面し、選びよのない悲
しい悲しい進化を

受け入れるように、時間をかけてゆっくりと。

1 - 2それから（前書き）

そしてKは深く深く眠る。から

1 - 2それから

Kはひどい空腹とともに、目を覚ます。

朝焼けを確認するが、5日経っていることには気がついていない。

階下から物音。Kの母親が帰ってくる。

Kの母親「K、学校から電話が来たよ！学校はー？K！、いるのー？」

とんとん、とんとん、とんとん、かちや。

わやああああああああああああああああああ

kの母親は、悪臭と血にまみれたkとkの部屋を目撃する。

kは飛びかかり、母の口を塞ぎ、目を伏せて首を振る

kの母親「ぶえ、k、k、いったいどうしたの！」

*

Kは自殺者の心情について考える。彼らが自殺をすることは、逃避ではなく前向きな挑戦なのではないだろうか？

自殺とは狂気だ。狂気を持った彼らが、嫌だから逃げる、というまともな考えをするだろうか？

彼らは生まれ変わるつもりなのだ。圧倒的で揺るぎない偏見と、深い悲しみを抱えて。

*

Kはこれまでの自分に決別する。

母の首を絞める手に多少の力を込めて。

がえっ

あつけない程に死んでしまふ。簡単に殺してしまふ。

びちっ、ぶちっ

こんなにも人の肉はやわらかい。

Kはごくりと喉を鳴らす。流れ出る血潮、真っ赤な肉。これはごちそうだ。

――

*

ばりがり、ぢやぶ、ずずず、くちやくちや。

Kはこれまでに読んだ漫画を思い出す。

聡く、行動をためらわない。無粋な者を殺し、食らう。

悪役の描写がなされていたが、Kにとっては人のあるべき姿のように思えた。

母の全身を食べつくした後、Kはこれからのことについて考える。

K「僕はもう人間ではないのだから社会に適合する必要なんて無い。すきにいきよう」

Kは家中の家具にライターで火をつけて、コンロのガスを開けて去っていった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2749t/>

カンニバル・シェイプシフター

2011年11月20日21時35分発行